

「ゆうさん」で交流を

保健福祉センターを利用して行われている中央福祉館主催のワープロ教室で、このほど機関紙が完成しました。

この教室、今年の5月から始まったもので、5人のメンバーは脳卒中や脳こうそくと闘いながらリハビリに励んでおり、ワープロは頭と手を使うのでリハビリにうってつけということで始められました。

機関紙は健康ライフプラン「優3ゆめ1」からとり「ゆうさん」と名付けられ、A3、12ページですべて手作り。できあがった機関紙は、リハビリ教室の仲間や在宅リハビリで頑張っている方、また、社会福祉協議会などに配られました。



敬老の日を前に九月七日、大町市長や市福祉事務局長、社会福祉協議会の関係者らが、市内の百歳以上のお年寄りを訪問しました。今年市内で百歳を越えるのは、男性二人を含む十一人、この日の訪問は、うち六人で、羽根布団などの贈り物をもったお年寄りらはうれしそうでした。

まだまだ元気です

創意工夫で10周年

昭和59年8月、西国で2番目に発足した「南国市青少年発明クラブ」は、今年10周年を迎え、9月10日に南国市保健福祉センターで記念式典を開きました。

このクラブは、子どもたちの創造力を育て、人間形成を図ることを目的とし、月1回の活動を、県児童生徒発明くふう展では毎年、優秀な成績を納めています。

この日の式典には、指導に当たっている先生、クラブ員、父母ら約100人が出席。創立10周年を祝い、これを契機に、今後の発明クラブの充実と発展を誓いました。

この後、垣内保夫さんが「少年の夢」と題して記念講演。さらに工作教室も行われました。



奉仕活動の輪を拡げて行きます
ロータリークラブの女性版といわれる「国際ソロプチミスト南国」(吉川京子会長)が、八月二十一日発足。中四国地区の会員百八十人が参加の中、二十三人の会員の認証式が、グレース派すしで行われました。

国際ソロプチミストは一九二二年アメリカで、仕事を待つ女性たちによって結成され、日本では、一九七〇年に認証されています。県内では約百人が保健衛生、環境衛生、国際親善など、幅広く地域社会での奉仕活動を行っています。

認証式の際、吉川会長の記念演説として、南国市長に金一封が贈呈されました。

▶九月十四日、老人保健施設夢の里で、敬老会が行われました。参加した六十八人のお年寄りは歌を唄ったり、レクリエーションで楽しみました。



▶九月十日の下水道促進デーを前に、八日、共田開拓区域となる大埔、東崎、野中地区などで、下水道有効利用を訴えるパレードを行いました。



▶九月十五日、市内各地区で敬老会が行われ、日ごろお世話になっているおじいさん、おばあさんに感謝しました。(写真は瓶岩地区の敬老会)



▶九月九日から十一日まで、県農業技術センターを会場に農業振興フェアが行われました。最新農機具の展示販売や実演などがあり、期間中は一万人以上の人がありました。

▼昭和19年の結婚から手を取り合って半世紀。戦後の激動期を、助け合いながら過ごして来たご夫婦の金婚式が、9月1日、社会福祉センターを会場に行われました。この晴れの日を迎えた南国市のご夫婦は55組。報道写真で振り返る頑張り50年と題したビデオを見ながら感慨に浸っていました。



▲8月23日、保健福祉センターで、きんさんぎんさんのレポートでおなじみの、村上允俊氏を迎えて健康づくり講演会が開かれました。

村上さんがユーモアたっぷりに、きんさんぎんさんとのふれあいの中で学んだ健康の秘けつや、思い出を話すと、会場は笑いが起こったり、感心したりと、楽しい時間を過ごしました。